

大規模災害や事故などから国民を守る
総務省消防庁

総合職技術系採用パンフレット

FDMA 消防庁
住民とともに Fire and Disaster Management Agency



〒100-8927 東京都千代田区霞が関2-1-2
TEL/03-5253-5111 FAX/03-5253-7531
<http://www.fdma.go.jp/>



ACCESS

- 丸ノ内線「霞ヶ関」駅下車
A3b出口直結
- 日比谷線「霞ヶ関」駅下車
A3b出口直結
- 千代田線「霞ヶ関」駅下車
A3b出口直結
- 有楽町線「桜田門」駅下車
4番出口徒歩約3分



古紙パルプ配合率80%再生紙を使用



理系行政官は
どのように
「国民の命」を
守るのか

消防庁の理系行政官は、 チームワークと技術で 「国民の命」を守る

消防庁では、国民の一人ひとりが消防防災を強く意識し、災害に決して揺るぐことのない社会の構築に貢献するため、常に人命優先の立場から、火災、地震、風水害など各種災害による死傷者の発生を最小限にとどめるための努力を続けています。
このパンフレットでは、消防庁の理系行政官がどのように「国民の命」を守っているのかを紹介していきます。

災害の種類

大規模災害・事故

- 地震災害 •津波災害 •風水害
- 火山災害 •火災 •危険物事故
- 原子力災害 •航空災害 •海上事故
- 鉄道事故 •道路事故

重大事件

- ハイジャック •大量殺傷型テロ
- 重要施設テロ

武力攻撃事態

- 着上陸侵攻 •ミサイル攻撃
- ゲリラ・特殊部隊による攻撃・航空攻撃

Contents

page
3~4

メッセージ

[消防庁の理系行政官とは?]

page
5

平常時における 消防防災業務

page
6

災害時などにおける 応急対応業務

page
7~8

職員紹介 千葉周平

[予防課違反処理対策官]

page
9~10

職員紹介 岡澤尚美

[仙台市危機管理室
防災計画課長]

page
11~13

職員紹介

[消防庁で活躍する職員]

page
14

キャリアパスについて

page
15~16

被災地における 消防庁職員の活躍

page
17

新卒理系行政官の1年

page
18

活き活き働く！ 消防庁の女性職員

問 理系行政官はどのように「国民の命」を守るのか。

消防庁では、国民の一人ひとりが消防防災を強く意識し、災害に決して揺るぐことのない社会の構築に貢献するため、常に人命優先の立場から、火災、地震、風水害など各種災害による死傷者の発生を最小限にとどめるための努力を続けています。このパンフレットでは、消防庁の理系行政官がどのように「国民の命」を守っているのかを紹介していきます。

答 消防庁唯一の専属職員として、様々な専門家の力を「チームの力」に変える。

消防防災に関する制度づくりには「国民の命」を守る現場の意見は不可欠です。また、国全体を動かすダイナミックな制度づくりには他省庁との連携や、法律や地方自治に関する深い知見も必要となってきます。そのため、消防庁では様々な経歴を持つ職員が、それぞれの機関から派遣され、専門知識を活かして一緒に働いています。例えば、消防の現場で活躍する消防吏員や地域の防災を担当する市町村や都道府県の職員、地方自治や行政評価を専門とする総務省の職員、医師免許を持った厚生労働省の職員、看護師などがいます。また、国の機関として、消

防研究センターがあり、研究官として採用された職員も多くいます。消防庁の理系行政官は、現場の意見を正確に理解した上で施策に反映させるため、入庁して数年で地方の消防本部へ出向し、消防防災行政の基礎的な知識を身につけています。また、国の行政官として、政策実施のための知識を日々の業務から修得しています。消防庁の理系行政官は現場の知見と国の行政官としての知見の両方を有する職員として、様々な経歴を持つ職員を「チームの力」に変える橋渡しの役割を担っています。



答 理系の知見を有する行政官として、「合理的な安全対策」を提示する。

高齢化社会の到来や、新エネルギーの出現、ICTの活用など、社会の大きな流れの中で、それに対応した合理的な安全対策が求められています。合理的な安全対策の検討は、消防庁の理系行政官が中心となって、科学的な根拠をもとに、安全的にも、経済的にも合理的な結果を導きます。安全対策の検証は消防研究センターの研究官や、関係メーカーなどと協力して進めるので、研究者や技術者と議論するための理系の素養と、合理的な安全対策に関係者に説明するための行政官としての技量が求められます。安全対策の検証結果は、有識者や消防本部を含む検討会で議論し、法律などの制度となって世の中に広まります。消防庁の理系行政官の醍醐味は、自分が構築した制度が社会インフラの一部になっているのを確認できることであり、その面白さを実感しながら仕事をしています。

